

ヤンバルクイナの飼育のお仕事

どうぶつたちの病院 沖縄では、交通事故などで救護されるヤンバルクイナの治療やリハビリを通じて、飼育技術を培い、繁殖成功までこぎ着けました。現在では環境省の飼育下繁殖事業となり、人工受精や野生復帰に向けた取り組みを行っています。

1. ヤンバルクイナ飼育員の業務内容（飼育や繁殖、野生復帰試験前の訓練、その他）

ヤンバルクイナの保全活動は、野生個体を守る生息域内保全と、万が一の絶滅に備え飼育下繁殖技術などを確立する生息域外保全を連携し両輪で実施しています。近年野生動物を守る上で基本的な考え方である One Plan Approach を実践し絶滅を回避した種としてヤンバルクイナの保全活動は国際的にも高い評価をされています。

ヤンバルクイナの飼育の歴史は浅く、飼育下繁殖に関してまだ多くの研究課題があります。ヤンバルクイナを守るためにはヤンバルクイナを知ることから始まります。ヤンバルクイナの生理・生態を知り、飼育下でのあらゆる技術を開発すること、それが世界でここだけのヤンバルクイナの飼育員の仕事です。

- ・飼育…日常的な健康管理・飼育環境整備
- ・繁殖…遺伝的多様性を維持するためのペア形成、繁殖成功率の向上を目指した技術開発（ケージのレイアウトや繁殖行動のモニタリング・解析）、人工受精技術の開発など
- ・野生復帰…天敵（ハブやカラス）訓練手法の開発、飼育下から野外の環境に順化するための環境順化訓練、人へ順化しない人工育雛手法の開発など
- ・基礎研究…換羽調査、体重や行動の季節変動の把握、加齢による形体や行動の変化など
- ・普及啓発…地元の学校（小・中・高）での出前授業の開催、他企業と連携した情報発信など

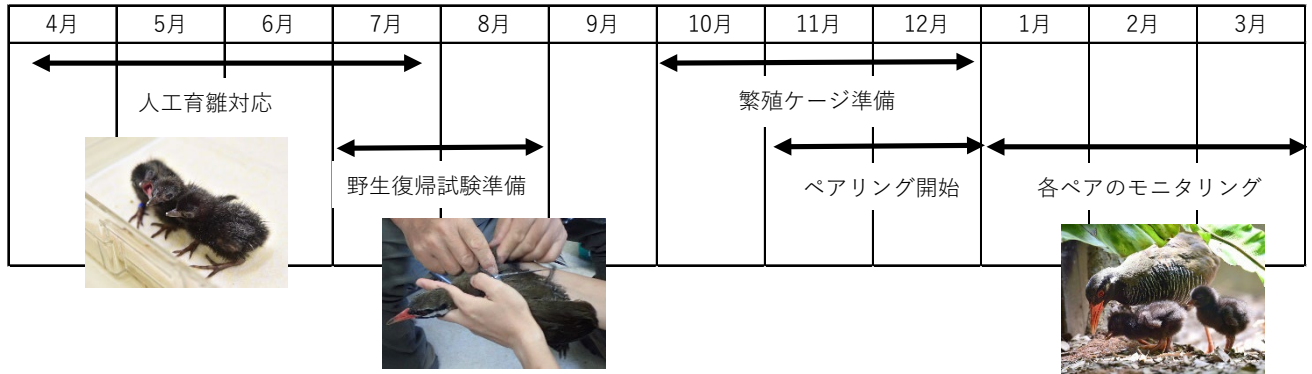
また、大学や他機関とも連携して様々な調査研究を行っています。

【共同研究・連携実績】

- ・国立環境研究所：遺伝子解析、細胞保存、死因検索
- ・山階鳥類研究所：生態研究、野生復帰に向けた技術開発
- ・多摩動物園、横浜市繁殖センター、上野動物園、沖縄こどもの国など：飼育技術の情報共有
- ・北海道大学、帯広畜産大学：感染症・薬物代謝に関する研究
- ・日本獣医生命科学大学：栄養学研究、餌飼料の開発
- ・京都大学、岩手大学、沖縄美ら海水族館：生殖細胞保存、繁殖に関するホルモン分析
- ・琉球大学：繁殖行動解析、種子散布に関する研究

その他、帝京科学大学、岡山理科大学、日本大学、沖縄高専など様々な大学や専門機関と共同研究を行っています。

ヤンバルクイナ飼育業務の大まかな流れ



2. やんばるでの暮らし

2021年に世界自然遺産に登録されたことから分かるように、やんばるは世界レベルの「世界中でここにしかないもの（生き物、文化、暮らしを含む）」が豊富です。時間の流れがゆるやかで、人との繋がりもあたたかく、適度な不便さも刺激的な地域です。通勤時にはヤンバルクイナをはじめ、ノグチゲラや季節の渡り鳥を見かけたり、退勤時にはケナガネズミや様々なカエルやヘビに出会えます。また、地域の皆さんと日常的に挨拶をしたり、地域行事に参加したりと、住民の皆さんとの繋がりには欠かせません。沖縄県外や地域外からの移住者もあり、皆さんとても気さくな方々です。

3. 飼育員からのメッセージ

多くの仕事があるように、「ヤンバルクイナの保全」も地道な活動が多く、その積み重ねが結果に繋がります。また、日々の飼育業務は体力・気力が必要で、様々な課題を解決する創造力も重要です。沖縄という小さな島の北端で、希少種における最先端の技術開発という大きな事業に取り組んでおり、豊かな人材を必要としています。自然豊かなやんばるの地で、ヤンバルクイナの保全のために一緒に働きませんか？ご応募お待ちしております！